最終評価シート

最終評価（表紙）

向日市　歴史的風致維持向上計画（平成27年2月23日認定）
最終評価（平成27年度～令和6年度）

■ 統括シート（様式1）・・・2

■ 方針別シート（様式2）

Ⅰ 歴史と文化に関する情報発信、情報提供に努め、「向日市」の認知度を高める・・・3

Ⅱ 地域の伝統文化の保全・継承、後継者の育成に努める・・・4

Ⅲ 歴史・文化資源を維持保全するとともに、活用を図る・・・5

Ⅳ 美しい景観の保全と修景に努める・・・6

Ⅴ「大極殿のあるまち　向日市」にふさわしい地域・観光振興を推進する・・・7

■ 波及効果別シート（様式3）

ⅰ ふるさと向日市への住民理解への向上・・・8

ⅱ「向日ブランド」の創出・向上・・・9

ⅲ 観光入込客数の増加・・・10

■ 代表的な事業の質シート（様式4）

A 史跡長岡宮跡保存活用事業・・・11

B 向日市文化資料館企画展実施事業・・・12

■ 歴史的風致別シート（様式5）

1 向日神社に係る歴史的風致（神社と各種祭礼）・・・14

2 史跡長岡宮跡に係る歴史的風致（史跡長岡宮跡と大極殿祭）・・・15

3 古代の街道に係る歴史的風致（説法石と題目踊）・・・16

4 用水・ため池と条里制水田に係る歴史的風致・・・17

5 竹林とタケノコ栽培に係る歴史的風致・・・18

6 鉄道と住宅地開発に係る歴史的風致・・・19

■ 庁内体制シート（様式6）・・・20

■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）・・・21

■ 全体の課題・対応シート（様式8）・・・22

最終評価（統括シート） **（様式１）**

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R6年

① 歴史的風致

	歴史的風致	対応する方針
1	向日神社に係る歴史的風致（神社と各種祭礼）	Ⅰ，Ⅱ，Ⅴ
2	史跡長岡宮跡に係る歴史的風致（史跡長岡宮跡と大極殿祭）	Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅴ
3	古代の街道に係る歴史的風致（説法石と題目踊）	Ⅰ，Ⅱ，Ⅳ，Ⅴ
4	用水・ため池と条里制水田に係る歴史的風致	Ⅰ，Ⅳ
5	竹林とタケノコ栽培に係る歴史的風致	Ⅰ，Ⅳ，Ⅴ
6	鉄道と住宅地開発に係る歴史的風致	Ⅰ，Ⅳ，Ⅴ

② 歴史的風致の維持向上に関する方針

	方針
Ⅰ	歴史と文化に関する情報発信、情報提供に努め、「向日市」の認知度を高める
Ⅱ	地域の伝統文化の保存・継承、後継者の育成に努める
Ⅲ	歴史・文化資源を維持保全するとともに、活用を図る
Ⅳ	美しい景観の保全と修景に努める
Ⅴ	「大極殿のあるまち　向日市」にふさわしい地域・観光振興を推進する

③ 歴史まちづくりの波及効果

	効果
i	ふるさと向日市への住民理解の向上
ii	「向日ブランド」の創出・向上
iii	観光入込客数の増加

④ 代表的な事業

	取り組み	事業の種別
A	史跡長岡宮跡保存活用事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理
B	向日市文化資料館企画展実施事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理

最終評価（方針別シート）　　（様式２）

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R6年
方針	Ⅰ歴史と文化に関する情報発信、情報提供に努め、「向日市」の認知度を高める	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

歴史的風致を維持向上するためには歴史・文化資源豊かな「向日市」として認知されることが重要であるが、現状は長岡宮跡が存在する市としても十分に認知されておらず、本市の歴史・文化資源を積極的に情報発信し、認知度を高めることは重要な課題となっている。

これまでの広報むこうや市ホームページを活用した情報提供に加え、情報案内板や観光マップなどあらゆる媒体を活用して情報発信、情報提供を行っていくとともに、大極殿跡の整備や京都市との連携事業を進めることにより、「大極殿のあるまち　向日市」としての認知度を高めていく。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	長岡京広報・PR事業	公共交通機関を活用した広報、ロゴマーク作成、グッズ販売、SNSを活用したPR、歴史文化交流センターを活用した各種イベントの開催等	あり	H27～R6
2	長岡京・平安京連携事業	竹結びフェスタ参加者数　約8千人（R6） 京都西山 竹の里・乙訓「青もみじとあじさいの御朱印めぐり」、サイクルツーリズム「京都西山ヒルクライム参拝」等	あり	H26～R6
3	観光マップ作製事業	歴まちガイドマップ発行　7千部（H27） 「るるぶ」発行部数　22万部（H29～R1） 向日市の歴史発行（H29）、販売（R1）	あり	H26～R1
4	文化資料館企画展実施事業	企画展実施　年1回（H27～R6）	あり	S59～R6

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●長岡京広報・PR事業

長岡宮跡の共通ロゴ、ロゴを模したグッズ製作などにより、長岡京が向日市にあったことを市内外に発信し、認知度向上に努めた。また、公共交通機関を活用した広報やSNSを活用したPR、まちあるき・土器づくり体験等のイベントなどの開催により、「大極殿のあるまち　向日市」の認知度向上に寄与した。

●長岡京・平安京連携事業

隣接する京都市との協働イベント「竹結びフェスタ」を毎年開催するとともに（R2・R3除く）、京都西山エリアの広域周遊観光事業を実施するなど、連携事業を効果的に行うことができた。

●観光マップ作製事業

「向日市歴まちガイドマップ」や、「向日市の歴史」により、本市の風致や歴史・文化資源を分かりやすく紹介することができた。

また、観光冊子「るるぶ特別編集 京都向日市」では電子ブックも作成し、デジタル技術を用いた情報発信を行った。

共通ロゴマーク

まちあるき事業

向日市・京都市「竹結びフェスタ」

④ 自己評価

ロゴマーク、ガイドマップ等冊子類、企画展、各種イベントの開催等について、様々な広報媒体を用いてPRを行うことで、認知度向上に寄与することができた。

⑤ 今後の対応

引き続き、広報誌や市ホームページ、SNSなど、様々な媒体を活用し、情報の発信を行うとともに、京都市との連携事業を通じて「大極殿のあるまち　向日市」の認知度を市内外に高めていく。

また、文化資料館における企画展の開催等、歴史資料の公開や情報提供を行うことで、豊富な歴史・文化資源に触れる機会を創出していく。

最終評価（方針別シート）　（様式２）

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R6年
方針	Ⅱ地域の伝統文化の保存・継承、後継者の育成に努める	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

本市には向日神社の神幸祭、還幸祭をはじめ、鶏冠井題目踊、大極殿祭など地域で行われている祭礼や伝統文化が多数存在しているが、近年では祭礼行事を支えていた担い手の高齢化や地域コミュニティに対する関心の希薄化により、後継者が不足している状況になっている。

このような状況を打開するための技術継承、後継者育成の取り組みが不十分であることから、郷土芸能の保存や伝承活動への支援に努めるとともに、活動の様子を地域住民に周知し、地域全体での保存・継承が図られるよう取り組む。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	地域歴史ボランティア養成事業	・むこうスタイルLABO H29　全4回（約40人が受講） ・むこう観光スタートアップ講座 R1　　全8回（26人が受講）	あり	H29～R1
2	長岡京を活かしたまちづくり等支援事業		あり	H29～R1
3	市民歴史活動連携事業	参加人数延べ551人（H27～R5）	あり	H24～R6
4	歴史資源調査活用事業	古文書目録整理、歴史資源所在調査、クラウド型収蔵品システムの導入等	あり	S59～R6

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●地域歴史ボランティア養成事業

●長岡京を活かしたまちづくり等支援事業

勉強会「むこうスタイルLABO」や観光人材育成プログラム「むこう観光スタートアップ講座」の開催により、市の魅力を市民自らが掘り起こして活用する、市民主体のまちづくり活動につながった。

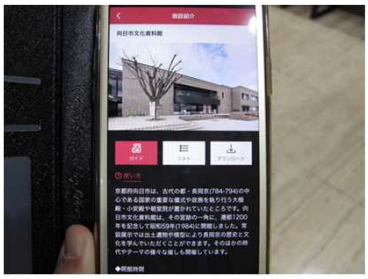
●市民歴史活動連携事業

多くの人が集まる「向日市まつり」と連携して行う、歴史・文化の市民活動「大極殿衣裳行列」「西岡武者行列」を支援し、本市の歴史的魅力に触れる機会を市民に提供できた。また、令和2年以降はコロナ禍等の影響により「向日市まつり」が中止となっているが、市内在住の小学生を対象とした、古代衣裳について学ぶワークショップを開催し、引き続き、機会の提供に努めた。

●歴史資源調査活用事業

本市に点在する歴史・文化資源を活かしたまちづくりを推進するため、市内の祭礼や講などの行事に関連する資料の調査を行うとともに、調査成果を活用した歴史講座及び歴史散歩等を開催することで、伝統文化の保存や継承を図ることができた。また、令和３年に新たに導入した収蔵品管理システムにより、収蔵資料の的確な管理と情報発信の強化につながった。

古代衣裳着用体験イベント
「長岡宮の都人に変身！」
（H30年度）



クラウド型収蔵品管理システム

④ 自己評価

市内の祭礼や伝統文化に関する調査結果を広く市民に周知するとともに、市民参加型事業を展開することで、伝統文化の保存・継承や、歴史を活かしたまちづくりに対する機運が高まった。

⑤ 今後の対応

文化資料館での企画展や長岡京を活かしたまちづくり等支援事業を通じ、市内の祭礼や伝統文化を地域住民に周知し、地域全体での保存・継承が図られるよう、引き続き、取組みを進める。

また、収蔵品管理システムなどの新しいデジタル技術を用いて、歴史資源の的確な管理と活用を行い、情報発信を市内外に向けて推進していく。

最終評価（方針別シート）　（様式２）

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R6年
方針	Ⅲ歴史・文化資源を維持保全するとともに、活用を図る	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

本市では、これまでから文化財の指定や登録などを行うことで、歴史上価値の高い建造物などの保存に努めてきたが、認知度が低かったり、個人所有などの事情により、十分な活用がされておらず、建替えや増改築、取り壊しなどによって貴重な資源が失われつつある。

長岡宮跡の史跡範囲拡大と公有化、古墳群や歴史的建造物などの文化財指定について、引き続き取組みを進めるとともに、歴史文化資源のネットワーク化を図る。また、文化資料館においては歴史的資料を収集、整理しやすい環境を整備するとともに、展示内容を充実させる。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	大極殿整備計画事業	東屋建築(75.47㎡)、回廊表示(339㎡)	あり	H27～R1
2	史跡長岡宮跡保存活用事業	R5末時点 史跡指定面積 15,697.27㎡ ・公有化面積 15,044.66㎡ ・公有化率 95.84% ・整備面積 12,030.01㎡ ・整備化率 76.64%	あり	S56～R6
3	向日市文化資料館整備事業	歴史体験交流センターの整備	あり	H25～27
4	発掘調査説明会事業	参加人数延べ1,150人（H27～H29）	あり	S52～H29
5	文化財の指定	史跡：長岡宮跡（H28）、乙訓古墳群（H28）、物集女城跡（R6） 国登録文化財：向日神社（H27）、旧上田家住宅（H30）、向日庵（旧寿岳家住宅）（R6）	あり	H27～R6

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●大極殿整備計画事業　●史跡長岡宮跡保存活用事業

周辺の歴史文化遺産と一体的に保存し、また目に見えない史跡をより体感できるように、一部を立体的に復元したほか、長岡宮内裏内郭築地回廊及び外郭築地を、国登録有形文化財の旧上田家住宅と併せて整備を行うなど、大極殿地区を含む史跡長岡宮跡の活用促進に寄与した。

長岡宮跡の発掘調査

●向日市文化資料館整備事業

文化資料館の一部を歴史体験交流センターとして整備し、本市の歴史・文化や観光情報を発信することで、来訪者の交流促進に繋げることができた。

旧上田家住宅の整備

●発掘調査説明会事業

埋蔵文化財発掘調査で発掘した成果について、説明会を開催することで、埋蔵文化財に対する市民の理解を深めることができた。

④ 自己評価

長岡宮跡の文化財の追加指定や整備により、市民や来訪者の長岡宮跡に対する認知や理解を深めることができ、文化財の歴史的価値の普及を図ることができた。

⑤ 今後の対応

引き続き、長岡宮跡の史跡範囲の拡大や整備、文化財の指定に取り組んでいく。これらの文化財にちなんだイベント等の実施などにより、文化財の歴史的価値の普及に努め、歴史・文化資源を維持保全していくための機運を高め、活用の促進を図っていく。また文化資料館においても、歴史的資料の収集や整理しやすい環境を整え、展示内容の充実を図っていく。

最終評価（方針別シート）　（様式２）

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R6年
方針	Ⅳ美しい景観の保全と修景に努める	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

向日市には「竹の径」を擁する向日丘陵や条里制水田、西国街道、西向日住宅一帯の「桜の径」など、随所に風情ある良好な市街地環境が維持されている。一方、市域の竹林や田畑の面積は減少傾向にあり、また、西国街道沿いでは歴史的資源が現代的なまちなみの中に埋もれてしまったり、「桜の径」における桜並木は老木化や根上がりなどによって景観が阻害されている。

これらの景観は、古墳群や長岡宮跡などの歴史的資源と一体となっており、市民のふれあい、憩いの拠点となるよう、散策路などとして整備を進め、景観の保全と修景を図っていく。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	竹の径景観保全事業	整備延長　2,972.8m（H27～R5）	あり	H12～R6
2	桜の径景観保全事業	整備延長　132.1m（H29～R5）	あり	S40～R6
3	西国街道整備事業	整備延長　258.8m（H27～H28）	あり	H27～28
4	長岡宮跡周辺道路美装化事業	整備延長　366.1m（H27～R5）	あり	H27～R6
5	歴史的石碑・常夜灯保全活用事業	石碑・常夜灯移設　3か所（H27～28）	あり	H27～28

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●竹の径景観保全事業

延長約1.8kmに設置された8種類の竹垣の保全改修を行うことで、竹やタケノコのPRにつながり、市民や来訪者の認識や理解を深めることができた。

●桜の径景観保全事業

桜の木の成長による根上がりから道路構造物が破損している箇所を中心に、桜の木の環境にも配慮しながら、安全性の向上、景観保全のための道路改良を行うことで、市民の愛着が深い桜並木の景観を保全することができた。

●西国街道整備事業

通常のアスファルト舗装から石畳風の塗装を用いた道路に改修することで、路面に凹凸がないままで、歴史的な環境と調和した景観保全を図ることができた。

●長岡宮跡周辺道路美装化事業

公共交通機関である阪急西向日駅から史跡長岡宮のそれぞれの遺跡や向日神社などを結ぶ道路の美装化を行うことで、まちなみの連続性を保ちつつ景観保全を図ることができた。

●歴史的石碑・常夜灯保全活用事業

現代的なまちなみに埋もれてしまった常夜灯や石碑を適切な場所に移設することにより、市民や来訪者が西国街道を歴史ある街道として再認識することにつながった。

竹の径景観保全整備事業（R5年度）

長岡宮跡周辺道路美装化事業（H29年度）

④ 自己評価

歴史的な環境や周辺環境に考慮した景観の保全及び修景を行うことで、市民や来訪者の理解を深めることができ、風致の維持向上に寄与することができた。

⑤ 今後の対応

市民のふれあいや憩いの拠点となるよう、引き続き「竹の径」や「桜の径」、長岡宮跡周辺道路の整備など、本市が誇る美しい景観の保全と修景に努める。

最終評価（方針別シート） **（様式２）**

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R6年
方針	Ⅴ「大極殿のあるまち　向日市」にふさわしい地域・観光振興を推進する	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

地域・観光振興を通じて、歴史資源を認知し、保全活用を図っていく意識を浸透させるためには、快適な回遊性を確保することが重要であるが、散策する上での拠点や休憩所となる施設が不足しているほか、散策道としての道路の整備が十分ではない。

観光スポットとなる歴史・文化資源の場所をわかりやすくPRするとともに、それぞれのスポットをつなぐ情報案内板の設置や、周遊拠点・散策路の整備、テーマごとの散策ルートの設定など、ハード、ソフト両面から地域に配慮しながら回遊性の向上を図る整備を進める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	情報案内板設置事業	誘導ｻｲﾝ35基、ﾃﾞｼﾞﾀﾙｻｲﾈｰｼﾞ6基	あり	H23～R6
2	歴史文化交流拠点整備事業	歴史文化交流拠点の整備（2か所）	あり	H25～R3
3	歴史資源回遊性向上施設整備事業	施設改修（3か所）	あり	H27～29
4	向日神社周辺整備事業	休憩施設の整備（ﾄｲﾚ、ﾍﾞﾝﾁ等設置）	あり	H25～28

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●情報案内板設置事業

「向日市歴史文化観光情報板設置計画」に基づき、市内観光周遊の拠点となる地点等にデジタルサイネージや誘導サインなどの観光案内板を設置することで、歴史・文化資源の回遊性が向上した。

●歴史文化交流拠点整備事業

発掘調査などにより貴重な文化財が発見されている市民体育館周辺地区において、地域交流活動の拠点として歴史文化交流センターを整備し、展示している土器の公開入れ替えや土器づくり体験などを行った。また、長岡宮跡周辺地区における地域交流活動の拠点として、旧上田家住宅の整備を行い、市民の歴史に対する理解を深めることができた。

●歴史資源回遊性向上施設整備事業

周遊する際の休憩場所、集合場所となるように、市内の公園に設置されているトイレなどの施設改修を行い、本市の歴史的資源を巡る回遊性が向上した。

●向日神社周辺整備事業

国の重要文化財である向日神社周辺において、トイレやベンチなどを備えた休憩施設を整備し、回遊性の向上に寄与した。

デジタルサイネージ（H29年度）
誘導サイン（H28年度）

旧上田家住宅の整備
（R3年度）

④ 自己評価

休憩施設や情報案内板等の各種整備により、歴史・文化資源の回遊性の向上に寄与したと同時に、歴史を通じた、市民の地域交流活動の拠点として、「歴史文化交流センター」と「旧上田家住宅」を整備し、交流の促進に資することができた。

⑤ 今後の対応

引き続き、整備した周遊拠点や散策路を活用し、回遊性の維持向上を図るとともに、市民の地域交流活動の拠点を活用したイベント等の実施によって、歴史・文化資源のネットワーク化を図り、「大極殿のあるまち　向日市」にふさわしい地域・観光振興を推進する市内外にPRする。

最終評価（波及効果別シート） **（様式３）**

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R6年
効果	ｉ ふるさと向日市への住民理解の向上		

① 効果の概要

長岡京などの歴史・文化資源を活かしたまちづくりの意識向上により、「ふるさと向日市」を応援、PRする人材育成を推進した。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	ふるさと向日市創生計画（第１次・第２次）	あり	H27～R6
2	向日市観光戦略プラン	あり	H28～R1

歴史的風致維持向上計画の認定を契機に、歴史の事実と魅力を市内外に発信し、まちの賑わいと活力を維持・創出することで、子どもから高齢者まで、すべての市民に向日市を「ふるさと」として愛着と誇りを感じられるまちづくりを行うとともに、市民との交流・連携を通じて、市民自らが本市の魅力をPRする活動の実現を目指し、人材育成プロジェクトに取り組んだ。

③ 効果発現の経緯と成果

ふるさと向日市に対する理解と愛着を深められるよう、歴史の事実とまちの魅力を市内外に戦略的に発信するとともに、市民自らが市の魅力を掘り起こし、そして活用し、地域住民主体のまちづくり活動につなげる事業に取り組んでいる。

●向日市ふるさと検定（Web検定）の実施

本市の歴史や魅力を知ってもらい、本市に対する愛着を高めてもらうことを目的に、検定事業を実施している。本市の歴史・文化資源に関することを出題することで、歴史的風致に対する理解を深めることができた。

また令和５年からは、もっと多くの方に気軽に向日市のことを知ってもらい、魅力に触れてもらえるよう、DX技術を活用したWeb検定を実施している。

申込者数：延べ5,592人（H28～R5 計8回分）

向日市ふるさとWEB検定
（R5年度～R6年度）

●人材育成プロジェクトの実施

主体的にまちづくりを行う人材の育成プロジェクトとして、平成29年より、勉強会「むこうスタイルLABO」を実施し、勉強会の参加者が、本市や京都市西京区でのイベントにおいて向日市をPRする取組が実施されるなど、地域住民主体のまちづくりにつながった。また、観光まちづくりに関する人材育成プログラム「むこう観光スタートアップ講座」においても、参加者が主体となって観光振興に取り組む仕組み作りを実施した。

阪急洛西口駅高架下TauTで
開催されたイベントへの出展
（R2年度）

④ 自己評価

向日市ふるさと検定はWeb検定も含めて、10年近く継続して実施し、申し込み延べ人数も5,000人を超えて受検していただいた。受検者からは「自分の住むまちを知る良い機会となった」という声をいただいており、本市に対する理解と愛着を深めることができた。

また、人材育成プロジェクトでは、市の事業以外でも市民自らが市の魅力をPRする取組が行われ、地域住民主体のまちづくりを推進することができた。

⑤ 今後の対応

向日市ふるさと検定（Web検定）を通じて、本市の歴史・文化資源に対する理解を深めるとともに、地域住民が主体となってまちづくりに取り組む機運を醸成する。

最終評価（波及効果別シート）　（様式３）

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R6年
効果	ⅱ「向日ブランド」の創出・向上		

① 効果の概要

向日市の歴史・文化資源を魅力的な商品・コンテンツにブラッシュアップし、本市でしか体験することのできない「向日ブランド」としての向上を図った。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	ふるさと向日市創生計画（第１次・第２次）	あり	H27～R6
2	向日市観光戦略プラン	あり	H28～R1

本市にはタケノコを代表とする野菜や竹細工の工芸品などの特産品、竹林の景観などの自然、長岡宮跡などの歴史・文化資源が豊富にあるものの、認知度が低いことから、地域資源を活かした「とっておきお土産品」の開発を行うとともに、歴史・文化資源を活かした観光体験プログラムの実施に取り組み、「向日ブランド」の構築を図る。

③ 効果発現の経緯と成果

●とっておきお土産品の開発

向日市の歴史・文化資源を活用した商品づくりを推進し、タケノコを使用したスイーツや、長岡京時代の食事を再現した御膳、特産品である竹を使用した箸など、本市ならではのお土産が開発された。

お土産品の開発（H28年度）

●観光体験プログラムの実施

「竹の径・かぐやのタベ」や「タケノコ掘り体験」、「親子竹馬教室」など本市の特産品である竹を活用したイベントや、長岡宮の古代衣裳の着用体験、西国街道等のまちあるきイベントなど、ここでしかできない観光体験プログラムを市内関係団体と連携して実施し、向日市に対する認知度の向上に寄与した。

タケノコ掘り体験（R6年度）

●向日市観光交流センター（まちてらすMUKO）の整備

観光情報の提供をはじめ、向日市産の農産物や商工特産品などの販売、地域の方々と観光客とが交流できる地域交流スペースやカフェスペースなどを併設した観光まちづくりの拠点として、向日市観光交流センター（愛称：まちてらすMUKO）を整備し、令和2年11月にオープンした。

来館者数：R2 37,987人、R3 99,532人、R4 109,882人、
R5 81,657人　⇒　（R2～R5累計 329,058人）

向日市観光交流センター
まちてらすMUKOの整備
（R2年度）

④ 自己評価

地域の観光資源を活用し、観光振興と、地域の活性化及び市民と来訪者との交流を促進するため、市内特産品等の展示、販売スペース、交流スペース等の機能を備えた観光拠点施設として、向日市観光交流センター（まちてらすMUKO）を令和2年度に整備し、交流と賑わいの創出に資することができた。

また、お土産品の開発やタケノコ掘り等の体験型観光プログラムを継続して実施することができた。

⑤ 今後の対応

向日市観光交流センター（まちてらすMUKO）から、観光情報の発信や市内の農産物・商工特産品の販売を行うとともに、市内関係団体と連携した各種イベント等を開催し、向日市でしか「買えない」「体験できない」『向日ブランド』の向上を図っていく。

最終評価（波及効果別シート） **（様式３）**

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R6年
効果	iii　観光入込客数の増加		

① 効果の概要

本市の観光入込客数は、本計画の始期であるH27年に324,699人であったが、その後、増加が続き、H31年(R1年)のピーク時には、551,379人となった。その後、コロナ禍の影響により、急減を余儀なくされたが、R5は328,316人まで持ち直し、コロナ前の水準に回復しつつある。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	ふるさと向日市創生計画（第１次・第２次）	あり	H27～R6
2	向日市観光戦略プラン	あり	H28～R1

本市は交通利便性が高いものの、市外からの来訪者は多くないため、本市が誇るべき歴史・文化資源を活かした観光誘客と、地域振興につなげるため、向日市観光戦略プランを策定し、各種事業を推進した。観光戦略プランの終了後も、市の施策の柱となる、ふるさと向日市創生計画において「観光振興の推進」を施策に位置付け、観光に係わる事業を推進している。

③ 効果発現の経緯と成果

歴史まちづくりと連携した以下の事業により、国内外からの積極的な観光客の誘致に努めた。

●観光周遊ルートの整備

長岡宮跡周辺道路の美装化や休憩施設の整備、誘導サインの設置などにより、観光周遊ルートの回遊性が向上した。

●歴史・観光専用ホームページの開設

多言語にも対応した市の歴史・観光専用ホームページを開設し、本市の歴史・文化資源の国内外への認知度向上に寄与した。

●観光マップ作製事業

観光冊子「るるぶ特別編集　京都向日市」の日本語版・英語版を発行し、国内外の来訪者に歴史・文化資源を周知できた。

●シェアサイクルステーションの整備

民間事業者と連携したシェアサイクルステーションを整備するとともに、域内一帯を巡るサイクリングツーリズムを展開するなど、市内の歴史・文化資源の回遊性の向上を図ることができた。

●「竹の径・かぐやのタベ」の開催

『竹林とタケノコ栽培に係る歴史的風致』を活かし、向日丘陵の竹林道「竹の径」において、毎年１０月に、水ろうそくを浮かべた約4,000本の竹行灯を並べるイベントを開催し、市内外から数多くご来場いただいている。

R6来場者数：26,000人（10/12 14,000人、10/13 12,000人）

歴史・観光専用ホームページ（H27年度）

るるぶ特別編集
向日市英語版
（R1年度）

サイクルステーション整備（R2年度）
（史跡長岡宮跡朝堂院公園）

かぐやのタベ開催（R6年度）

④ 自己評価

コロナ禍の時期には、観光入込客が減少したが、各種取組の推進により、本市の誇るべき景観や歴史・文化資源、イベント等を目的とした観光客の入り込みの維持に努めた。また、歴史・文化資源を活用したPRは、向日市の魅力の向上につながった。

⑤ 今後の対応

観光客が快適に市内を散策できるよう、周遊ルートの回遊性の維持向上を図るとともに、シェアサイクルなどの二次交通の活用を検討していく。

また、「竹の径・かぐやのタベ」は、【向日市＝竹林】をイメージ付ける、本市のシンボリックなイベントとして定着化しており、今後も継続的に開催し、地域活性化と観光促進につなげていく。

最終評価（代表的な事業の質シート） **（様式４）**

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R6年
取り組み	A 史跡長岡宮跡保存活用事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

史跡長岡宮跡を適切に保存し，活用を促進することを目的として、史跡の公有化を図った。また、目に見えない史跡をより体感できるよう、公有化した史跡の整備と同時にＡＲやＶＲの稼働範囲を広げた。

【主な取組内容】

・平成30年度　史跡長岡宮跡大極殿回廊地区の整備完了、竣工【平成26年度買上事業】
・令和3年度　史跡長岡宮跡内裏内郭築地回廊及び外郭築地地区（旧上田家住宅）整備完了、竣工【平成28年度買上事業】
・令和5年度　史跡長岡宮跡大極殿東面回廊地区整備のため、埋蔵文化財発掘調査を実施【令和4年度買上事業】
・令和6年度　史跡長岡宮跡大極殿東面回廊地区整備工事

評価対象年度内に買上した土地：3048.45㎡（20.2%）
評価対象年度内に整備した土地：4733.26㎡（39.3%）
※いずれも整備と同時に「AR長岡宮」の稼働範囲を追加。

・朝堂院公園及び旧上田家住宅に案内員を配置し、史跡長岡宮跡等、市内の歴史文化遺産の案内解説。
・エア遊具「ふわふわ!朝堂in」を用いた啓発活動。

史跡長岡宮跡内裏内郭築地回廊
回廊、築地塀及び柱跡を発掘調査をもとに再現（旧上田家住宅）

「AR長岡宮」を用いた歴史学習（大極殿公園）

② 自己評価

史跡長岡宮跡の公有化を積極的に行い、順次整備を行うことで文化財の適切な保護を図った。
整備の際は発掘調査を実施し、その成果を反映した整備、平面表示及び一部立体復元を行った。 実態が捉えにくい往時の姿をより体感するべく、復元・体感アプリ「AR長岡宮」をリリース、安全面を考慮し、整備した公園内でのみ稼働する等の工夫をしつつ、ARを通じて史跡の理解促進と地域振興・観光振興に寄与した。

外部有識者名	京都芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター日本庭園部門長 杉本宏（考古学、文化的景観学、歴史遺産研究）
外部評価実施日	令和7年2月15日（土）

③ 有識者コメント

歴史的に重要な史跡長岡宮跡については、その多くが住宅地に所在し、保存と活用の推進を図るには多くの課題があるなかで、宮跡中心部の大極殿回廊地区や内裏内郭地区などの重要な場所の公有化と整備が進み、長岡宮跡を視覚的・空間的にいっそう現地体験できるようになったことは大きな成果であった。

また内裏内郭築地回廊部では旧上田家住宅と回廊跡の整備を組み合わせ、歴史の重層性が表現されるとともに文化財の活用が広がった事例は特筆すべきものである。

あわせてこれらの整備と連動してデジタルコンテンツAR長岡宮が広く稼働し、歴史学習利用のみならず来訪者に長岡宮を体感してもらう今日的な絶好のツールとなっている。これら一連の事業を通して、史跡長岡宮跡の保存整備はもちろんのこと、史跡を活用した地域振興と観光振興にも大きく寄与できていると考える。

④ 今後の対応

引き続き、大極殿跡・朝堂院跡・内裏跡を含めた史跡長岡宮跡の拡充・拡大と保全整備を実施し、市域の歴史・文化資源や公共施設、交通機関等を連結するネットワーク化を図るなど、史跡長岡宮跡に係わる文化財の活用促進を図るよう努めていく。

最終評価（代表的な事業の質シート） **（様式４）**

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R6年
取り組み	B 向日市文化資料館企画展実施事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

歴史文化のまちづくりの中核拠点となる文化資料館において、さまざまな時代における歴史・文化の企画展を開催した。

【主な取組内容】
・平成27年度「乙訓の西国街道と向日町」（来館者数1,704人）
江戸時代の西国街道を中心に、名所図や地図、古文書などを展示し、街道が地域の形成に果たしてきた役割を紹介した。
・平成28年度「長岡宮の大極殿・朝堂院」（来館者数1,053人）
長岡京跡について、特にその中心となる大極殿・朝堂院に焦点を当て、機能や現代までの変遷をわかりやすく展示した。
・平成29年度「乙訓郡誌の編纂とその時代」（来館者数1,306人）
未刊「乙訓郡誌」稿の調査成果を活用して、郡誌編纂の過程とその時代背景を関係資料とともに紹介した。
・平成30年度「向日神社」（来館者数2,167人）
本市の市名の由来にもなった乙訓地域屈指の古社・向日神社の歴史を紹介する特別展を開催した。
・令和元年度「昭和モダンと向日町」（来館者数1,405人）
昭和期の向日町に居住した人々の活動や、それぞれの交流の様子を美術作品や資料で紹介した。
・令和2年度「寿岳文章 人と仕事」展（来館者数2,066人）
寿岳文章の英文学、書物工芸、和紙研究の業績と、東西文化の交流につとめた生涯を体系的・総合的に紹介した。
・令和3年度「寿岳文章　人と仕事－向日庵と和紙の旅－」（来館者数968人）
令和2年度の「寿岳文章　人と仕事」展を再構成し、寿岳文章が約80年前に全国から集めた手漉き紙を一堂に展覧した。
・令和3年度「日本画家・六人部暉峰の世界」（来館者数2,284人）
乙訓郡屈指の古社・向日神社の神官を代々務めてきた六人部家に生まれ、竹内栖鳳に入門して日本画家となった六人部暉峰の作品や関係資料を展示した。
・令和4年度企画展Ⅰ「『紙漉村旅日記』が語る和紙と時代」（来館者数1,499人）
寿岳文章が全国を行脚して収集した紙の実物見本と、調査の記録をまとめた『紙漉村旅日記』に焦点をあて、機械製紙に押され衰退の一途をたどっていた手漉きによる紙が、全国各地の村々で、まだ当たり前に漉かれていた時代の様子を昭和戦前・戦中期の時代背景とともに紹介した。
・令和4年度「向日市教育150年記念学校展　－教育のあゆみと学校－」（来館者数1,324人）
向日市域に初めて学校が開校して150年となるにあたり、市内の学校をテーマに、各校のなりたちと乙訓地域の教育の歴史を紹介した。

平成28年度特別展の様子

平成30年度特別展の様子

令和2年度特別展の様子

令和3年度特別展の様子

令和4年度学校展の様子

最終評価（代表的な事業の質シート） **（様式４）**

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R6年
取り組み	B 向日市文化資料館企画展実施事業	種別	歴史的風致維持向上施設

・令和4年度企画展Ⅱ「寿岳文章と向日庵本の世界」（来館者数1,094人）寿岳文章が残した英文学、和紙、書物など幅広い分野にわたる業績のうち、書物研究の実践的活動である“向日庵本”に焦点をあて、その出版物とともに、装幀に関する資料や刊行台帳などを展示して紹介した。
・令和5年度「扁額・古文書・檀林関係資料」（来館者数798人）
これまでに京都府暫定登録文化財となった向日市内の文化財のうち、扁額（社額）や古文書、鶏冠井檀林関係資料を展示し、身近なところでさまざまな文化財が守り伝えられていることを紹介した。
・令和6年度「中世の乙訓・西岡と物集女氏・物集女城」（来館者数3,083人）令和6年10月に京都府下の中世城館跡として初めて国史跡に指定された物集女城と、その城主である物集女氏が活躍した室町・戦国時代の乙訓・西岡の歴史を、出土遺物や古文書を展示して紹介した。令和7年1月の「物集女城跡」シンポジウムには約400人の参加者を得て、京都近郊の中世城館を代表する物集女城・史跡指定の意味を歴史学・考古学・地理学の各分野から総合的に確認した。

令和5年度企画展の様子

令和6年度企画展の様子

② 自己評価

本市には、全国で3番目に面積が小さいコンパクトな市域の中に、古代から近現代までさまざまな年代の歴史・文化資源が重層している。文化資料館で毎年企画する展示においては、その時々に応じて、本市の歴史や文化にもとづいたテーマにより資料を調査し展示した。毎回、多くの来訪があり、特に、向日庵の寿岳文章の民芸・文学の幅広い業績を紹介した令和2年度から令和4年度までの一連の展示と令和3年度の「日本画家・六人部暉峰の世界」は、いずれも画期的な展示として全国レベルで注目され、遠方からも若い世代を含めた多くの来訪があった。

また、講演会、日曜談話会、歴史ウォークなどの関連事業もあわせて実施することで、市民や来訪者に本市の歴史・文化資源を知る機会を提供することができ、向日市のみならず広く乙訓地域の歴史と文化を発信することができた。

外部有識者名	京都大学人文科学研究所教授　高木博志 （日本近代史、向日市歴史的風致維持向上協議会会長）
外部評価実施日	令和7年2月15日（土）

③ 有識者コメント

特筆すべき一つは、戦前期の田園都市・西向日住宅の向日庵に住む寿岳文章の活動である。寿岳による、柳宗悦の民芸運動と交流した和紙調査、ブレイクの私家本制作などは、当時の最高峰の業績であり、今日に続く市民文化の財産である。そのことが 企画展「寿岳文章と向日庵本の世界」と講演会などの活動を通じて、国際発信とともに、若い世代も含め多くの来館者・市民に認識された。もう一つは、中世城郭を代表する物集女城が国史跡に指定され、その企画展とシンポジウムが大きな関心を呼び、世代を超えた多くの参加者を得たことである。西岡衆の自治が歴史史料でも裏づけられ、21世紀の自治体にとって文化財保存の大きな指針となる。この二つの成果は、市民の学習・保存活動をともない、地域社会でその重要性が共有されてきている。

④ 今後の対応

歴史・文化のまちづくりの中核拠点として、引き続き歴史的資料の収集、調査を地道に進めるとともに、各時代の歴史が幾重にも折り重なる向日市の魅力を市内外の来訪者に伝える。

今回の計画で意義が見いだされた向日庵や史跡物集女城などとともに、必要とされるテーマで展示を企画し、本市の歴史・文化資源に親しんでもらう工夫として講演会や出版物、市民参加の学習会などを通じて市民の理解を深め、歴史的風致の維持向上につなげる。

最終評価（歴史的風致別シート）　（様式５）

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R6年
歴史的風致	１ 向日神社に係る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	Ⅰ　歴史と文化に関する情報発信、情報提供に努め、「向日市」の認知度を高める Ⅱ　地域の伝統文化の保存・継承、後継者の育成に努める Ⅴ「大極殿のあるまち　向日市」にふさわしい地域・観光振興を推進する		

① 歴史的風致の概要

向日丘陵の南端に立地する向日神社は、奈良時代創建の由緒と歴史を誇る乙訓屈指の古社である。神社周囲の7つの郷に及ぶ広い信仰圏を持ち、室町時代には7郷が協力して今日まで伝わる本殿を造営している。

現在の向日市という市名は、向日神社がその起源である。市内には向日神社の関係地が点在し、本社とを結んで執り行われる祭礼は、巡行の経路等が変わっても本質は変わることなく、今も脈々と続けられている。季節ごとに営まれる年中行事も、時代に応じて方法を変えながらも続けられているものが多く、地域の人々の神社へ寄せる信仰や愛着は今も変わらず深いものがある。

② 維持向上の経緯と成果

●向日神社周辺整備事業

国の重要文化財である向日神社周辺において、トイレやベンチなどを備えた休憩施設を整備することで、本市を周遊する際に向日神社を拠点とすることができ、回遊性の向上を図ることができた。

向日神社周辺整備事業（H28年度）

●鎮座千三百年に係る事業

平成30年に向日神社が鎮座千三百年を迎えた。文化資料館においては、平成29年に社蔵文書の史料調査を行い、また、向日神社と向日神社崇敬会が企画・発行した『向日神社史』のために改めて調査を行った。

また、平成19年に実施された企画展をもとに、上記調査の成果を加え、特別展「向日神社」を開催した。特別展では向日神社の歴史や造営などに関する資料を展示するとともに、祭礼や年中行事、氏子組織など脈々と続けられている事象について紹介し、向日神社の歴史と文化に対する理解を深めることができた。

期間：平成30年10月20日～12月9日　　来館者数：2,167人

特別展「向日神社」（H30年度）

●文化財指定

平成27年8月に境内13棟の建物が、国の登録有形文化財に指定された。

消防訓練（H30年度）

●文化財の保存、防災

向日神社やその周辺環境の修理、整備に対して補助を行い、令和4年には手水舎の修理を行った。また、消防訓練や立入検査などの防災対策を定期的に行うことで、歴史的な建造物の保全を図ることができた。

手水舎の修理(R4年度)

③ 自己評価

鎮座千三百年を契機に、文化資料館での特別展や地域住民による記念行事が開催されたことは、連綿と続く向日神社の歴史を地域住民に紹介する機会の提供につながった。以後も、周辺環境の修理等を行うことで、向日神社に係る歴史的風致の維持向上に資することができた。

④ 今後の対応

文化財の保存等について、文化財の指定や修理事業、防災防犯事業など、引き続き支援を行う。また、史料調査を継続することで向日神社の歴史や伝統を後世に継承し、地域住民や来訪者に広く周知を図る。

最終評価（歴史的風致別シート）　（様式５）

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R6年
歴史的風致	２ 史跡長岡宮跡に係る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	Ⅰ　歴史と文化に関する情報発信、情報提供に努め、「向日市」の認知度を高める Ⅱ　地域の伝統文化の保存・継承、後継者の育成に努める Ⅲ　歴史・文化資源を維持保全するとともに、活用を図る Ⅴ「大極殿のあるまち　向日市」にふさわしい地域・観光振興を推進する		

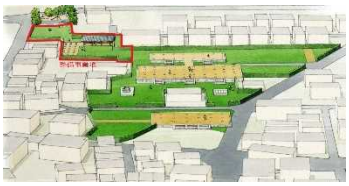
① 歴史的風致の概要

本市は、かつて、日本の都であった「長岡京（784～794年）」の中心地が置かれた場所である。現在は、史跡の整備地や周辺において1230年前の古代日本の首都「長岡宮」の様子を直接、目にすることはできないが、住宅開発などに伴う狭小地での発掘調査をつなぎ合わせることにより、古代の都として姿が明らかになってきた。そのような中で、120年以上にわたり地域住民の手により、連綿と「大極殿祭」が行われ、これを守り続けることが史跡指定の拡大や保全整備の原動力となり、ボランティア活動などの取組、さらには地域振興や観光振興の資源として注目されるようになってきている。

② 維持向上の経緯と成果

●大極殿整備計画事業

周辺の歴史文化遺産と一体的に保存するとともに、目に見えない史跡をより体感できるように、一部を立体的に復元させることで、史跡長岡宮跡大極殿地区の活用促進に寄与した。



史跡長岡宮跡大極殿地区の整備

●史跡長岡宮跡保存活用事業

史跡の適切な保存と活用促進を目的に、史跡の拡充、拡大と公有化を図り、国登録有形文化財旧上田家住宅との一体的整備や、長岡宮跡大極殿東面回廊地区の発掘調査等を実施した。

大極殿東面回廊地区の発掘調査

●長岡宮跡周辺道路美装化事業

阪急西向日駅から史跡長岡宮を結ぶ道路の美装化により、回遊性が向上した。また、阪急西向日駅前の整備に際しては、道路の美装化に加え、長岡宮の築地のモニュメントを設置し、長岡宮の情景を感じることができる景観を形成することができた。

朝堂院公園の整備

●復元・体感アプリ「AR長岡宮」

スマートフォンやタブレットの復元・体感アプリ「AR長岡宮」を追加リリースし、多くの方々に対し、長岡宮の理解を深めることができた。

●発掘調査、文化財指定

長岡宮跡は、昭和36年に実施された発掘調査成果により大極殿及び小安殿（後殿）が検出され、昭和39年に「長岡宮跡」として史跡指定を受けた。以後、重要な遺構が検出されるごとに同一名称で地域追加指定を受けている。

●大極殿遺蹟保存協会への補助

大極殿祭を主催している大極殿遺蹟保存協会に対して文化活動補助金を交付し、祭礼の伝承に寄与した。

AR長岡宮範囲拡張等事業

③ 自己評価

周辺道路の美装化を含めた長岡宮跡の一体的な整備により、市街化した周辺地域内においても、歴史・文化の情景が調和する景観の保全を図ることができた。

また、復元・体感アプリの活用や一部立体復元を行うことにより、往時の雰囲気を体感することができ、訪れる人々の歴史・文化の意識をより一層高めることができた。

④ 今後の対応

引き続き、史跡指定地の拡大を推進し、埋蔵文化財の確実な保存と活用を図る。また本市に長岡宮跡がある事実を市内外に周知し、認知度の向上を図るとともに、長岡京を活かしたまちづくりに取り組む地域住民に対して支援を行い、持続的に歴史的風致を保全していく機運を醸成する。

最終評価（歴史的風致別シート）　（様式５）

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R6年
歴史的風致	３ 古代の街道に係る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	Ⅰ　歴史と文化に関する情報発信、情報提供に努め、「向日市」の認知度を高める Ⅱ　地域の伝統文化の保存・継承、後継者の育成に努める Ⅳ　美しい景観の保全と修景に努める Ⅴ　「大極殿のあるまち　向日市」にふさわしい地域・観光振興を推進する		

① 歴史的風致の概要

西国街道は、京都の東寺口から摂津西宮、さらに兵庫を経て中国・九州の西国へと通ずる幹線道路であり、向日市域を通る街道の中でも、特に市民に親しまれている歴史的な道である。街道を通って人やモノが往来し、新しい文化が本市域にもたらされたが、その中でも後世に大きな影響を与えることになったのが、鶏冠井にもたらされた日蓮宗の信仰である。街道沿いには北真経寺や南真経寺、石塔寺などの寺院があり、また、灯篭、道路元標などの石造物が点在している。改宗の喜びを表現した鶏冠井題目踊は全国的にも貴重な民俗芸能である。このようなまちなみは京都近郊地としての本市の歴史と文化の一端を象徴する歴史的風致である。

② 維持向上の経緯と成果

●西国街道整備事業

通常のアスファルト舗装から石畳風の塗装を用いた道路に改修し、路面に凹凸がないままで、歴史的な環境と調和した景観を保全することができた。

●歴史的石碑・常夜灯保全活用事業

市街地開発による急激な環境の変化の中で、道路拡幅などにより位置がずれたり、現代的なまちなみに埋もれてしまった常夜灯や石碑を適切な場所に移設することで、西国街道を歴史ある街道として市民や来訪者に再認識してもらうことにつながった。

●民間団体への助成・支援

国登録有形文化財である中小路家住宅に対しては文化活動補助金を、京都府指定文化財の鶏冠井題目踊及び市指定文化財の鶏冠井シャナンボウの保存会に対しては後継者育成補助金を交付するなど、域内の伝統文化の保存・継承に寄与した。

●歴史的建造物活用事業

公有化での整備を計画していた建造物について、活用方策を検討するため建物の現況整理や活動状況等の調査を実施したが、公有化については所有者との協議の結果、断念となった。

●西国街道を活用した事業

歴史まちづくりへの機運が醸成されたことにより、市民ボランティアによる歴史ウォークや、西国街道沿いの商店の連携によるイベントが実施された。

西国街道整備事業（H28年度）

歴史的石碑・常夜灯保全活用事業　（H27年度）

③ 自己評価

現代的なまちなみの中に埋もれていた街道や石碑等の整備により、まちなみの連続性を保つことができ、かつての西国街道の雰囲気を感じさせる景観の保全を図ることができた。また、域内の民俗芸能の保存継承を図るべく、必要な助成や支援を行うことができた。なお、歴史的建造物の活用については所有者の意向を第一としつつ、適切な活用のあり方を検討していく必要がある。

鶏冠井題目踊の披露（R1年度）

④ 今後の対応

西国街道を活用した周遊ルートの周知や、地域ボランティア等との連携によって、西国街道沿いのにぎわいを創出していく。歴史的建造物の活用については、所有者の意向を第一に尊重し、支援や活用のあり方について検討を行っていく。

最終評価（歴史的風致別シート） **（様式５）**

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R6年
歴史的風致	４ 用水・ため池と条里制水田に係る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	Ⅰ　歴史と文化に関する情報発信、情報提供に努め、「向日市」の認知度を高める		

① 歴史的風致の概要

市街化が進む本市にあっては、農地と農家は減少しているものの、なお古代以来の条里の地割が地名とともに明瞭に残されている場所がある。そこでは、昔ながらの風景の中で伝統を受け継ぐ農作業がかなり限定的ながらも伝えられており、現在も高い生産性と品質を誇る都市近郊農業が営まれている。それを下支えしているのは、耕地にめぐらされた水利システムであり、用水の維持・管理を共同で行うために、それぞれの地区内で自治が発展していった。

本市をめぐる細い水路の流れは、古代あるいは中世以来の当地の人々の自治の源流でもあり、貴重な歴史的風致となっている。

② 維持向上の経緯と成果

●条里制水田を巡るイベントの実施

歴史文化交流センター活用事業として、周辺の条里制水田や樋門などを巡る、まちあるきイベントを実施することにより、市内外の参加者に対し、条里制水田について知る機会を提供することができた。また物集女・寺戸のイベントの際は、水利の特色を学ぶことができた。

●水路改修工事

条里制水田につながる水路の改修により、流下能力を改善することができ、条里制水田の適正な保全につながった。

●民間団体への助成・支援

向日市域における農業生産のはじまりが水路跡の出土により確認された森本遺跡について、文化活動補助金を交付し、活動を支援することで、遺跡の保存・継承に寄与した。

●旭米を活用した商品開発

今日のコシヒカリのルーツとなっている旭米が発見されたことは、本市農業の歴史上、特筆される事柄である。その旭米を活用した日本酒、ビールが民間事業者により開発され、市内のイベント等で販売されたほか、向日市観光交流センター（まちてらすMUKO）においても販売されており、旭米の周知普及につながっている。

まちあるきイベントの様子
（条里制水田の見学・R2年度）

水路改修事業（R4年度）

旭米を活用した商品（R1年度）

③ 自己評価

本市のまちなみに溶け込んでいる条里制水田について、まちあるきイベントの実施により、改めてその魅力を発信し、地域住民に用水や条里制水田に関する認知、理解を深めるとともに、水路の改修によって、条里制水田の保全につなげることができた。

④ 今後の対応

阪急洛西口駅西地区周辺で進む市街化の状況も踏まえながら、水田の歴史的風致の維持を図っていかなければならないと認識している。今後も、条里制水田について認知、理解を深める事業を検討していくとともに、旭米を活用した商品開発も検討するなど、歴史的風致の趣旨普及に努めていく。また、適宜、域内の水路修繕を行い、用水と水田の景観保全にも努める。

最終評価（歴史的風致別シート）　（様式５）

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R6年
歴史的風致	５ 竹林とタケノコ栽培に係る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	Ⅰ　歴史と文化に関する情報発信、情報提供に努め、「向日市」の認知度を高める Ⅳ　美しい景観の保全と修景に努める Ⅴ 「大極殿のあるまち　向日市」にふさわしい地域・観光振興を推進する		

① 歴史的風致の概要

向日市を含む乙訓地域と竹との関わりは、延喜式（927年完成）に朝廷へ「箸竹」を貢進する「乙訓園」がまず史料として登場する。江戸時代の乙訓の村々には竹の年貢が課せられていたことから、当地には古くから竹林が広がっていた。高度成長期には、竹材利用のマダケやハチクの薮はプラスチックの台頭と宅地開発によりほとんど失われたが、タケノコを生産するモウソウチクの薮は現在も市域北西部の向日丘陵に分布している。向日市のタケノコは京都式軟化栽培と呼ばれる極めて多くの手間と時間をかける栽培法で生産され、大きく柔らかいのが特徴である。特に「白子」と呼ばれる最高級品は特別なルートで取り引きされ、特産品としての地位を確立している。

② 維持向上の経緯と成果

●竹の径景観保全事業

竹林付近一帯の景観保全等の環境整備を進め、新たな観光資源を創造することを目的に、平成12年から地元竹材を利用した散策道「竹の径」の整備を行っている。延長約1.8kmの竹の径に8種類の竹垣を設置し、毎年保全改修を行うことにより、美しい景観が保たれ、本市を代表する観光名所となっている。

●竹の径を活用した観光PR

「竹の径」は本市を代表する観光名所であり、平成30年には旅行情報誌が行った「行ってみたい新緑絶景ランキング」で全国1位に選出された。市公式インスタグラムによる情報発信や、市制施行50周年を記念したPR動画、京都府や京都西山エリア（京都市西京区・長岡京市・大山崎町）と連携した広域観光「京都西山　竹の里・乙訓」事業の展開などによりPRを推進している。

●竹やタケノコを活用したイベントの開催

向日市観光協会、向日市竹産業振興協議会、向日市商工会等と連携し、「竹の径・かぐやのタベ」や「タケノコ掘り体験」、「親子竹馬教室」など、竹やタケノコにちなんだイベントを開催し、『竹林とタケノコ栽培に係る歴史的風致』を身近に感じ取ってもらい、市内外の来訪者に幅広く親しんでいただくことができた。

●長岡京・平安京連携事業

向日市と京都市では、それぞれ長岡京・平安京が建都された都市として、市境にある竹の径周辺で「竹」をテーマとした協働イベント「竹結びフェスタ」を開催し、域内のPRにつながった。

竹の径保全整備事業（R5年度）

市制50周年PR動画（R4年度）

③ 自己評価

竹の径の景観保全や、関連するイベントの開催等のPRを実施することにより、国内外を問わず多くの来訪者の姿が見られ、向日市の認知度を向上することができた。

また、「京都西山　竹の里・乙訓」と題した、周辺地域を含めた広域観光事業の展開により、地域の活性化が図られ、地域住民や民間事業者等が連携し、にぎわい創出に寄与している。

親子竹馬教室の開催（R5年度）

④ 今後の対応

引き続き、竹の径の景観保全に努め、本市を代表する名所として景観の維持向上を図るとともに、竹やタケノコを活用した向日市のPRに取り組んでいく。また、京都府・京都市・乙訓地域等、広域での連携を図り、「竹の里・乙訓」をテーマとした広域観光のブランディングに取り組む。

最終評価（歴史的風致別シート）　（様式５）

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R6年
歴史的風致	６ 鉄道と住宅地開発に係る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	Ⅰ　歴史と文化に関する情報発信、情報提供に努め、「向日市」の認知度を高める Ⅳ　美しい景観の保全と修景に努める Ⅴ 「大極殿のあるまち　向日市」にふさわしい地域・観光振興を推進する		

① 歴史的風致の概要

都市近郊へ私鉄の路線が延びていき、沿線に郊外型住宅地が造られていった大正時代から昭和期の初めにかけて西向日町住宅地は誕生した。西向日住宅地の人々は、自らの生活スタイルを守りながら、周囲と協調して、現代の向日市域の中でも個性あるまちなみを育ててきた。それを象徴するのが、造成時から計画的に配された街路に、整然と植えられたソメイヨシノの桜並木である。住民による組合や自治会は、結成当初からその維持管理に必要な経費を支出し、個人の家々では日々の掃除などに努めて、開発当初から都市としての計画とともにあった桜並木の景観を90年近くにわたって今日まで守り伝えてきた。

② 維持向上の経緯と成果

●桜の径景観保全事業

桜の木の成長による根上がりから道路構造物が破損している箇所を中心に、桜の木の環境にも配慮しながら、安全性の向上、景観保全のための道路改良を継続的に行うことで、歴史的風致の維持向上に寄与した。

●住民の自治的な活動

西向日住宅地の景観の維持管理は、地域住民による自治的な組織が大きな役割を担ってきた。平成21年には「西向日の桜並木と景観を保存する会」をまちづくり協議会として認定し、また、平成25年には「西向日地区まちづくり計画」を地区まちづくり計画として認定することにより、更なる住民の自治的な活動に寄与した。

桜の時期には地域においてコンサートが行われたり、桜並木をはじめとする景観を守り、歴史・文化資源を大切にする住民憲章を、「西向日桜並木のまち憲章」としてまとめ広く発信するなど、特色ある活動が続けられている。こうした住民活動の積み重ねもあり、平成30年には「西向日・桜の径と住宅地景観」として、京都府景観資産に登録されている。

●西向日住宅地の景観を巡るまちあるきイベントの実施

令和元年度には歴まち計画及び文化資料館の特別展「昭和モダンと向日町」と関連したまちあるきイベントを実施し、令和5年度のまちあるきイベントでは、漢学者・狩野直喜の別邸「葵園」や英文学者・和紙研究者の寿岳文章の邸宅「向日庵」を巡りながら、西向日住宅地のまちなみを形成する景観（建造物、噴水公園）を紹介するなど、域内の歴史的風致の理解を深めることができた。

桜の径景観保全事業
（H29年度）

まちあるきイベントの様子
（西向日住宅地の見学・R5年度）

③ 自己評価

域内一帯の景観保全を行うことで、市民の桜並木に対する愛着を深めることができ、住民の自治的な活動による景観の維持管理及びにぎわいの創出につながった。

④ 今後の対応

引き続き、桜の径の景観保全に努めることで、市民の桜並木に対する愛着を高め、西向日住宅地一帯の、住民の自治的な活動を支援していく。また、域内周辺を整備する際には、地域住民と適切に協議を行いつつ、周辺環境に配慮した景観形成を図る。

最終評価（庁内体制シート） **（様式６）**

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R6年

① 庁内組織の体制・変化

平成28年度には、組織改編により歴史・文化を活かしたまちづくりの担当部署と、市の広報の担当部署が一体となった「広報・ふるさと創生課」を新設した。「広報・ふるさと創生課」には観光の担当職員が兼任して所属していたが、平成30年度からは観光分野と市のPRの連携を促進するため、観光の担当部署も一体となった「企画広報課」を組織し、歴史・文化を活かした取組を市のプロモーションや観光でPRする体制を整えることができた。

その後、さらに組織改正等を経て、現在は事務局である環境産業部産業振興課（観光部門を所管）、都市整備部都市計画課、教育部文教課と、歴史・文化に関する事業に取り組んでいる教育部文化資料館を中心に各種事業に取り組んでおり、適宜関係部署との調整を図りつつ、個別の内容に応じてプロジェクト会議などにより、事業検討を行うなど、それぞれの部局が相互に連携しながら各種事業に取り組んでいる。

歴史まちづくりの体制（令和6年度）

部　署	
環境産業部	産業振興課
都市整備部	都市計画課
教育部	文教課
	文化資料館

必要に応じて関係部局の参加

② 庁内の意見・評価

・事務局を中心に適宜、関係部局との情報共有を図り、歴史まちづくりに関する取組を推進することができた。

・歴史的風致維持向上計画の認定を契機に、事務局以外にも各部署で歴史的風致を活かした取組が行われるようになった。

・職員が自主的に向日市ふるさと検定を受検するなど、歴史まちづくりに対する機運醸成を図ることができた。

歴史的風致維持向上協議会（R5年度）

（国、京都府との連携）

歴史的風致維持向上計画の認定を契機に、国や京都府との連携を行い、本市の歴史・文化資源を生かしたまちづくりの推進を図ることができた。

●「竹の里・乙訓」における連携
京都府が取り組んでいる、観光地域づくりの施策、「もうひとつの京都」において、「竹の里・乙訓」として広域連携を推進しており、本市の竹の径を筆頭に「竹」をテーマとしたブランディングに取り組んでいる。

●文化財の保存と活用における連携
文化庁や京都府教育委員会と連携を図ることにより、史跡長岡宮跡等の文化財の適切な保存・活用を図る。

ツーリズムEXPO（東京）における「竹の里・乙訓」のPRの様子（R4年度）

最終評価（住民評価・協議会意見シート） **（様式７）**

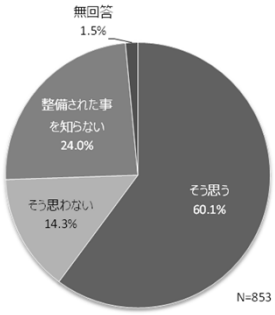
市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R6年

① 住民意見

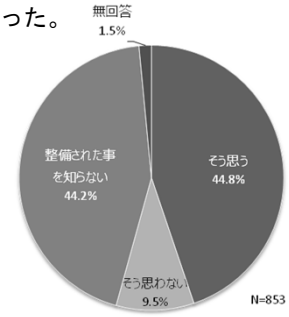
◆向日市の歴史を活かしたまちづくりに関する意向調査（平成27年度）

対象者：満18歳以上の市内居住者2,000人（無作為抽出）　回収率：42.7%（回収数853人）

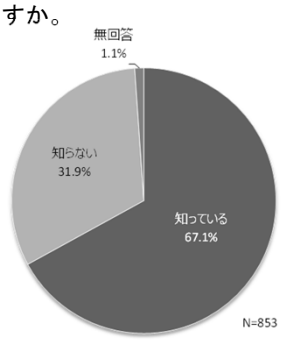
・道路の美装化やカラー舗装の整備により歩きやすくなった。



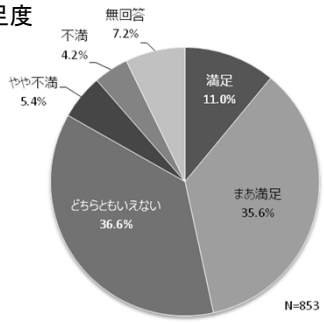
・多目的トイレや休憩施設が整備されまちなかの散策がしやすくなった。



・向日市をPRする取組を知っていますか。



・「文化財の活用等歴史を活かしたまちづくり」に対する満足度



・道路の美装化や休憩施設の整備といったハード整備については概ね肯定的な評価が得られた。
・市のPR活動に対する認知度は67.1%であったが、歴史まちづくりに関する事業について「知らない」と回答した割合が高い項目もあった。
・「文化財の活用等歴史を活かしたまちづくり」に対する満足度については「満足」の回答が46.6%と概ね高い結果になったが、「どちらともいえない」が36.6%を占めていた。

◆向日市のまちづくりに関する市民アンケート（令和6年度）

対象者：満18歳以上の市内居住者2,000人（無作為抽出）　回収率：39.4%（回収数787人）

・雇用やまちの経済を活発にしていくためには、どのような取組みが大切か。
→『歴史や文化を生かした観光の振興』と答えた人の回答率：14.0%（設問中、上位5番目）
・今後、向日市がどのようなまちであってほしいと考えるか。
→『歴史や文化、伝統を大切にするまち』と答えた人の回答率：9.8%（設問中、上位8番目）
・まちの住み心地や行政の施策についての満足度と重要度をどのように考えるか。（5.0満点 ）
→文化・コミュニティ『文化財の保全やまちの歴史を学ぶ機会』：満足度3.00点、重要度3.34点
→快適な生活環境『歴史のまちなみ』：満足度3.12点、重要度3.43点
→快適な生活環境『自然などの景観』：満足度3.07点、重要度3.66点
→土地利用・都市整備『向日丘陵などの竹林や緑地の保全』：満足度3.14点、重要度3.70点
→まちづくり全般『歴史文化資源に関する情報発信や有効活用』：満足度2.97点、重要度3.30点

➡回収数のうち、市民からの自由意見が558件寄せられ、【歴史・文化・観光】については、17件の意見が寄せられた。（最多意見は【都市基盤整備】の393件）

② 協議会におけるコメント

【計画全般に関すること】
・市のほぼ全域が歴まち計画の重点区域に設定されていることは、全国的にも非常に珍しく、評価においての強みになると考える。まさに市全体が「丸ごと歴まち」と言える。
・過去の土地利用など、歴史的な背景も将来の土地活用の中で意識してもらいたい。

【文化財の保全整備について】
・史跡長岡宮跡、旧上田家住宅を同時かつ一体的に整備するといった手法は、重層的に様々な時代の歴史資源が折り重なる向日市の歴まち計画ならではの素晴らしい取り組みであり、全国でも唯一と言える。
・これまでの文化財は、復元を基本として整備が進められてきたが、重層性や価値の多様性が認められてきており、考え方が変わりつつある。寺戸大塚古墳でも復元だけにとらわれず、これまでの歴史の重層性や、今に引き継がれている歴史や文化も踏まえた形で保存活用を考えていくことが重要である。

【歴史的風致の維持向上について】
・歴史的風致の維持向上のためには、農業の維持が必要だが、従来のままでは農家は引退していくし、農地は減っていく趨勢を止め難い。何らかの農業の新しい担い手の育成などを取り組む必要がある。また、西国街道の民家や町並みの保全にも、所有者の事情に依存するのは当事者に過大な負担があり、何らかのサポートの新しい取組みが必要である。景観計画や都市計画、市民活動サポートなど、複数の地域づくり施策への反映が必須な時期にきている。

最終評価（全体の課題・対応シート） **（様式８）**

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R6年

① 全体の課題

【歴史・文化資源の保全及び活用に関すること】
・文化財の維持保存に関し、復元保存を基本とした整備手法から、これまでの歴史の経緯や引き継がれてきた文化など、重層的な価値も含めた保存活用の手法を検討していく必要がある。

【歴史的風致の維持保全と継承に関すること】
・祭礼行事や営農を支えていた担い手の高齢化、コロナ禍などによる祭礼やイベントの中止なども相まって、地域コミュニティに対する関心が一層希薄化しており、地域の歴史的資源の保全、伝統文化の継承などに対する理解や意識の浸透を、地域に広げていくことが難しくなってきている。
・市街地開発の進展により、本市の歴史的風致の一隅を担ってきた、条里制水田や用水路などの風致が大きく姿を変えつつあるため、これらの風致の継承の在り方を検討していく必要がある。

【計画全般に関すること】
・令和6年度をもって歴まち計画は終了となるが、完了していない事業や継続する事業など、個別の事業については、計画終了後も着実に実施していくとともに、本計画の推進によって得られた様々な知見を、各々の事業にフィードバックしていく必要がある。

② 今後の対応

【歴史・文化資源の維持保全及び活用に関すること】
・文化財の修理等について、必要性の高いものから計画的に修理を進め、継続して保全を図っていく。
・文化財保護という面では、歴まち計画策定後、公有率が増加したことや、保存活用計画を策定することで一定の道筋をつけることができた。今後は文化財単独ではなく、今までの歴まち計画を踏まえて、今の暮らしとともにある形での活用を図っていくとともに、引き続き、文化財を活用したイベント等の実施により、文化財の歴史的価値の普及に努めていく。

【歴史的風致の維持保全と継承に関すること】
・「竹の径」における竹垣改修や、「桜の径」の桜並木の整備など、本市が誇る美しい景観の保全を通じて、歴史的風致の維持向上を図っていく。
・今後とも、周辺景観との調和に配慮した土地利用や、農地の集約による営農環境の保全など、適切な土地利用が図られるよう努めていく。

【計画全般に関すること】
・今後の「歴史まちづくり」については、令和7年3月に策定した、市の施策の柱となる「第3次ふるさと向日市創生計画」の中で、推進する施策の一つに位置付け、「歴史・文化資源の整備と活用」が図られるよう努め、PDCAサイクルに基づき、毎年度、計画内容の見直しを行いながら、施策に紐づく各取組を推進することとする。